

先輩インタビュー — 新人が聞いてみました! —

入局1年目の「新人さん」が先輩たちにインタビュー！
仕事内容や衆議院事務局の魅力はもちろん、職場の雰囲気や繁忙期と閑散期の違いなど、受験生が気になるあれこれを探ってきました！

令和6年入局の玉腰千紘です。
庶務部人事課で採用を担当しています。
パンフレットを通して、
皆さんに衆議院事務局の魅力をお伝えできればと思います！



インタビューに答えてくれた先輩職員の皆さん



石原 諒人
令和4年入局
議事部議事課



高橋 まりな
令和4年入局
調査局総務調査室



中野 立樹
令和5年入局
庶務部情報基盤整備室



濱崎 祐稀
令和5年入局
国際部渉外課

これまで経験した業務内容について教えてください。

石原 最初の配属は委員部の議院運営委員会担当で、その後、厚生労働委員会の担当となり、一番下の4番手を経験しました。現在の所属である議事課では、最初の1年は先例と調査の担当として、内外からの問合せ対応も含めた本会議関係の調査をしていました。現在は、議事係という、本会議で扱う議事内容のほか、議院運営委員会理事会や議院運営委員会等で協議される事項についてまとめた資料を作る係で働いています。

高橋 私は、入局時から総務調査室で働いています。総務調査室は総務委員会所管の地方自治や地方税財政、情報通信、郵政などに関する調査を行う部署です。具体的には、法律案等参考資料を作成して委員に配ります。また、法案に関係なく議員事務所から個別の調査依頼もあるので、その対応もしています。

玉腰 1年目の職員でも議員に説明することはありますか。

高橋 調査員は法案の内容に関することを説明するので、1年目の職員がいきなり一人で説明をすることはないです。基本的に説明をするのは上司で、その補足説明をすることはあります。

濱崎 私は民間企業で5年ほど働いた後、衆議院事務局に入局し、現在に至るまで国際部渉外課で勤務しています。在京大使館や外務省経由で外国の議長や議員が衆議院議長や衆議院の委員会の委員長にお会いしたいという依頼が来るので、関係部署と調整しながら、懇談の日時や場所等のアレンジをするというのが基本的な業務です。そのほか、外国の議長が就任した際のお祝いの書簡を議長名で発出したり、外国の方に英語で国会の案内をしたりもします。また、韓国国会事務局*との事務局間交流があるのですが、その担当もしました。韓国語を少し勉強していたこともあり、アンニョンハセヨとかチョウムパッケスムドダとか言ってみたり…。

*韓国の国会事務局



韓国国会事務局の職員と

中野 なんて言ったんですか？

濱崎 こんにちは、はじめまして、です。(一同：おー)

玉腰 国際部は英語をはじめ外国語の能力が必要かと思いますが、英語は得意ですか。

濱崎 英語研修を半年ほど受けていたので、多少は話せるようになりましたが、それまでは英語で電話が来るとパニックになってしまいうくらいのレベルでした。英語力はあった方がいいですが、入局後に勉強する機会もあるので、心配しなくても大丈夫です。

玉腰 私も英語研修を受けています。

中野 私は、最初は委員部調査課で、2つの特別委員会の担当と調査係、3つの係を兼務していました。大変でしたが、なんとかやり切りました。また、今年の7月に庶務部情報基盤整備室に異動になりました。委員会運営から離れて、衆議院全体のシステムの管理や皆さんが使用するパソコンなどの管理をしています。入局2年目ですが、いろいろな経験をしていると思います。

衆議院事務局を知ったきっかけや志望理由は何ですか。

石原 大学に置いてあったパンフレットで、国会職員という仕事の存在を知りました。元々、日本の政治史や議会政治といった政治学が好きだったので、公務員という選択肢は考えていたものの、行政の職員のみを想定していました。国会職員を知ったときにこういう職場もあるのかと思い、強い興味を持ちました。

高橋 大学の先輩で衆議院事務局に入局した方の話を聞いて知りました。大学入学時に上京したのですが、絶対に東京で働きたいという気持ちがあり、最初は「ずっと東京で働けるんだ！」という安直な動機ではありましたが、また、行政機関にはさまざまな組織があるのですが、立法という国会しかないと思い、その特殊さに魅力を感じ、国会で働くことを目標としていました。

玉腰 国家公務員で転職がないのは大きいですよ。

高橋 人生設計も立てやすいです。

濱崎 公務員に転職しようと調べていく中で、民間にはないさまざまな業務があることに加えて、国会で働くという他にはない唯一無二な感じがかっこいいなと思いました。

玉腰 民間企業からの転職ということですが、前職は政治に関連のある仕事だったのですか。

濱崎 政治は関係ないですが、貿易関係だったので、国際系の仕事ではありました。官公庁とのやり取りも多く、そこで公務員として働くことへの興味を持ちました。

中野 長期的に勉強するというのを成し遂げたら新しい自分に出会えるのではと思い、公務員試験の勉強をしていました。そんな中で大学の公務員講座のパンフレットを見ていたら、衆議院事務局に受かりましたという先輩がいて、衆議院事務局を知りました。

高橋 先輩に導かれて…

中野 今ここにいます。

最終的な入局の決め手を教えてください。

高橋 他の機関も受けましたが、衆議院は会議運営から調査まで幅広い業務があることに加え、異動で新しい分野の担当になったりすることもあるので、分野にとらわれず、自分の知識の幅を広げることができることに魅力を感じ、衆議院に決めました。



玉腰 異動すると、転職したくらい業務や雰囲気が変わると聞いたことがあります。

濱崎 私は、元々政治や時事的なことに興味があったのですが、特定の分野や政策に思い入れがあるというわけではなかったのですが、さまざまな部署がある衆議院事務局ではその時々でやりたい仕事が見つかるだろうと思ったのが決め手でした。

玉腰 幅広い分野に興味がある人や特定の分野に絞りたいという人にはぴったりの職場ですよ。

石原 おっしゃる通り。

中野 私は国会議事堂を見たときに決意しました。

高橋 建物で決めただ。

中野 国会議事堂を見ていると小さいことがどうでもよくなるほど圧倒されますよ。建物が素晴らしいという点ではここが1番だと思います！あとは、採用試験を受けた際の職員の方の雰囲気も良かったです。

石原 決め手はないというか、国会に勤めることを強く希望していました。他の公務員試験や民間企業も受けてはいましたが、落ちたら考えようというくらいでした。

中野 石原さんは総合職ですよ。採用予定数の少なさで不安はなかったのですか。

石原 不安しかなかったです。受かるとはあまり思っていなかったので、合格したときにはびっくりしました。

出身学部について聞きたいです。

玉腰 濱崎さんと中野さんは法学部以外のご出身とのことですが。

濱崎 教育学部出身ですが、業務をする上であまり不利だと感じたことはありません。同僚がどの学部出身なのかも知らないです。多少は、法学部出身者は有利なのかもしれませんが、部署によって業務内容が異なりますし、異動をすれば一から学びなおす必要性があると思いますので、あまり気にはしていません。

玉腰 法学部出身者でも国会法を学んでいたという人はあまりいないですよ。

高橋 趣味で学ぶとかでない限りあまりいい気はします。

石原 政治史に通じていれば、業務上の予備知識には困らないかもしれませんがね。

中野 私は社会学部ですが、特に不利だと感じたことはないです。先輩で消費者問題関係の法律を学んでいた方が、関連する調査室に配属されたと聞いたことはあるので、得意な分野があれば、関連する部署に配属される人もいるのかなと思います。

玉腰 私の同期も法科大学院出身者、理工学部出身者、人文系の学部の出身者など多様な印象があります。

高橋 いろんな人に受験してほしいですよ。

玉腰 どんな学部の出身者でも活躍できる職場だと思いました。

事務局に対して、堅いイメージを持つ受験生も多いと思いますが、職場や職員の雰囲気はいかがですか。

高橋 議員に説明するときなど、ある程度の緊張感を持たなければいけない場面はもちろんありますが、業務を進める上で意見を出し合ったり、業務外でも雑談をしたりと穏やかな雰囲気です。

濱崎 上司が部下に対して敬語で話していることに驚きましたが、穏やかな雰囲気です。雑談もしますし、お菓子をくれる人もいます（一同：笑）。あとは、仕事や趣味で目標を持っている人や自分で勉強をしている人が多い印象です。

中野 特に委員部時代は、オンオフの切替えがはっきりしているなど思いました。仕事をしているときはスイッチが入っている状態で、仕事が終われば飲みに行ったり、朝までカラオケに行ったりしました。一方で、情報基盤整備室は、委員部とは雰囲気がかなり違いますが、だからと言って静かに仕事をし続けるというわけではなく、和やかな雰囲気です。



石原 運営系の部署は、話が好き人が多いなと思いました。常に職員同士お互いにコミュニケーションを取りながら仕事をしています。特に委員会担当のキャップは議員への説明の機会も多いので、話上手であることも重要なかなと思っています。

入局してから、印象に残っていることはありますか。

濱崎 スウェーデンの国会議長の招待が印象に残っています。空港での出迎え、移動手段や食事の手配、衆議院議長との懇談のセットなどやることが非常に多く、大変ではありましたが、スウェーデン

先輩インタビュー — 新人が聞いてみました! —

の議長から労いの言葉をもらった際は感慨深かったです。

玉腰 文化や宗教等の違いを考慮に入れて準備をするのでしょうか。

濱崎 国によっては、宗教等の理由で食事の配慮が必要なこともあります。

中野 世間での注目度が高い法案の審査に関われたことです。自分の目の前で繰り広げられていた論議がニュースで報じられていたときは嬉しかったですし、何日もかけて議論された法案の審査が終わったときは達成感でいっぱいでした。

石原 議院運営委員会を担当していた際に、国会会期末に内閣不信任決議案が提出されたときに忘れられません。座学的な知識はありましたが、実際に提出から本会議での採決に至るまでのプロセスに関与し、政治のリアルを目の当たりにすることができ、実務に携わっているのだと実感しました。

高橋 委員会で質疑のメモ取りをしていた際に、全国放映のテレビに映っていたことが印象に残っています。放映されることは知っていたのですが本当に映っている！って。

中野 私もテレビに映ってみたかったです。

玉腰 それも衆議院事務局の特徴のひとつかもしれませんね。

採用1年目と比べて成長したと感じるときはありますか。

濱崎 私は元々消極的なタイプの間人だったのですが、1年目から多くの仕事に携わる中で、やってみれば意外と何とかなるということを学び、物怖じせずに仕事に取り組みができるようになったと思っています。

中野 資料の作成など、先を見通して作業ができるようになったときは成長したなと感じます。採用当初より効率よく仕事ができるようになったと思います。

石原 国会関係の知識が座学的な意味でも実務的な意味でも増えたと思います。あとは、中野さんと被りますが、会議の運営において起こりうることを予測して業務を進めることができるようになりました。

高橋 調査室では、文章を書く場面が多いので、文章の構成力はかなり向上しました。

繁忙期と閑散期について教えてください。

中野 情報基盤整備室は異動したばかりなので、まだ分かりませんが、委員部に関しては、国会会期中は忙しく、委員会の前日は退庁時間が遅くなることもありますね。

玉腰 国会会期中かどうかで、繁忙期と閑散期がはっきりしていると聞きますが、実際はいかがですか。

中野 委員部はそうですね。メリハリがあると思います。同じ運営部門でも議事課はどうですか。

石原 議事課も同じです。ただ、会期中でも、委員会の場合は時期的に繁閑の差があることが多い一方、本会議は基本的にコンスタントに開かれるので、開会中は常に仕事があります。議事課も本会議前日に準備がありますが、若干の残業のみで退庁できることが多いです。小さなお子さんを育てながら働いている方も少なからずいらっしゃいます。



高橋 調査局も国会会期中が繁忙期、閉会したら閑散期という感じですが、自分が担当している法案が衆議院を通過したら、会期中であっても休みを取りやすいです。閑散期は定時で帰っていますし、休みもかなり取っています。ワークライフバランスは取れています。

濱崎 国際部は繁忙期と閑散期がはっきりと分かれてはいません。外国議長の招待は開会中に行われますので、必然的に開会中は忙しくはなります。国際部は当日中にやらなくてはいけないことや急ぎでやらなくてはいけないことがあまりなく、イベントに向けてある程度の期間をかけて準備することが多いので、招待業務の準備をしているとき以外は特に残業はしていません。また、同じ部署の男性職員が育休を8か月程度取っていました。

玉腰 男性も育休を取りやすい環境なのですね。

濱崎 そうですね。日ごろから、上司から休むようにと声をかけてもらえますし、上司自身も休暇を取っているのでも働きやすいです。

玉腰 どの部署も想像していたよりもワークライフバランスが良いと思いました。

受験生へのメッセージをお願いします。

石原 自分が関わった仕事ニュースになったり、政治や国のこれらに関わることができることに魅力を感じていますし、衆議院事務局に入局してよかったと思っています。学部問わず、関心があればぜひ受験してみてください。

高橋 就活中は精神的に疲れることもあります。納得した進路に進めるように頑張ってもらいたいと思います。行きたいなと思った職場の中に、衆議院事務局があればそれは大変嬉しいことです。合格後は、海外へ旅行に行ったり、のんびりと過ごしたりなど、社会人になる前にやりたいことをやってほしいです。

濱崎 数年前まではこうして衆議院事務局で働いているとは全く思っていませんでした。先の自分が何を考えているか全くわからないと思うので、何をしたいとどこに行きたいとか、直感を信じたいと思います。パンフレットや説明会で衆議院事務局に入りたいと思ってくれる人がいれば嬉しいです。

中野 公務員試験の勉強は辛いと思いますが、長い時間かけて勉強する習慣が身についていると思うので、今後も継続してほしいと思います。

玉腰 皆さん、ありがとうございました。

(令和6年8月開催)

私たちと一緒に

国会で働いてみませんか？

